



名詞－現在分詞結合の位置づけ：
一語書きされる名詞－動詞結合との関係

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 直子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00002700

名詞－現在分詞結合の位置づけ

— 一語書きされる名詞－動詞結合との関係 —

中村 直子

Journal of Language and Culture

Language and Information

Vol. 13 (2018)

Department of Language and Culture

Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences

Osaka Prefecture University

言語文化学研究（言語情報編）

2018・3 第13号抜刷

大阪府立大学人間社会システム科学研究科 言語文化学専攻

名詞－現在分詞の結合の位置づけ

—— 一語書きされる名詞－動詞結合との関係 ——

中 村 直 子

1. はじめに

名詞－動詞結合の不変化詞動詞を，辞書の見出し語からリストアップしようとする際に，必ず行き当たるのが，名詞－現在分詞の結合である。これは，本来は名詞－動詞結合であるものの動詞部分が，現在分詞という形態をとっていると理解すべきか，あるいは，名詞－現在分詞という新たな結合なのか。本論は，その問題を解決するための論考である。

2. 問題設定

筆者の最終的な目標は，名詞－動詞結合の分析であり，ここでは，名詞－現在分詞結合は，名詞－動詞結合のひとつのバリエーションとして，同じ範疇で扱うべきものなのかどうかということを問題にする。

2.1. 先行研究における扱い

Fuhrhop (2007) では，名詞－現在分詞結合について，1章がさかかっている。しかし，Fuhrhop (2007) の目的は，著書のタイトル通り，„zwischen Wort und Syntagma“ であるため，名詞－動詞結合に関しては，形容詞なのか動詞形態なのかという点に立脚して分析されており，結論は以下のようになっている。

Die Substantiv-Partizip-I-Komposita verhalten sich zum großen Teil adjektivischer als die entsprechenden einfachen Partizipien I. Allerdings verhalten sie sich keineswegs einheitlich, vielmehr decken sie ein Spektrum in ihrem Verhalten ab, das von dem

des ‚normalen‘ Partzip I bis zum Verhalten eines prototypischen Adjektivs reicht. (Fuhrhop (2007) S.145)

つまり、そのふるまいには、「ノーマルな」現在分詞からプロトタイプ的な形容詞までのスペクトルがあるということである。

Eisenberg (2013) では、Getrennt- und Zusammenschreibungの節で、Verbindungen mit Adjektivとして、第二構成要素が形容詞のもの、過去分詞のもの、現在分詞のものと3つ併せて扱われている。

Das Fazit ist wie eben: Wörter aus Substantivstamm und PartI können nach einem produktiven Muster gebildet werden, das homonym zu einem Syntagma aus direktem Objekt und partizipialem Adjektiv ist. (Eisenberg (2013) S.319ff.)

もちろん、一語書き・分かち書きについて論じている部分であるため、その問題が生じるかどうか焦点となる。この後に続く部分では、一語書き・分かち書きの問題は生じないと結論づけられている。

上記に挙げたいずれからも、本論の目的である、名詞-動詞結合と同じ範疇で、名詞-現在分詞結合を扱うべきかどうかについては、明確な結論が得られなかった¹。

3. 使用した辞典について

Duden正書法辞典では、一語書きと分かち書きの両方が許容される見出し語には、一語書きと分かち書きの両方が記載され、Dudenによって推奨される書き方（一語書き、分かち書きのどちらか）が、蛍光イエローでマークされている。

今回、用例収集のために使用したのは、ダウンロード版ソフトの

¹ 言うまでもなく、名詞-現在分詞結合そのものの分析については、4格目的語+動詞の結びつきとして分析した場合など、得るところは多い。

Duden - Die deutsche Rechtschreibung, 26. Aufl.である²。

4. 数から分かること

今回収集した、名詞－現在分詞の見出し語の総数は248例で、見出し語に一語書きと分かち書きの両方が現れ、そのうち一語書きが推奨されるものと、見出し語が一語書きのみのものを合わせて、一語書きするものが197例あった。一語書きと分かち書きの両方が現れ、分かち書きが推奨されるものが51例あった。また、全体の248例のうち、見出し語が一語書きのみで現れるものが149例あった。以下に図式化したものが、図表1である。

見出し語の総数 248		
一 語 書 き の 総 数 197	一語書きのみ見出し語 149	一語書き・分かち書き両方が見出し語で、 <u>分かち書き</u> が推奨 51
	一語書き・分かち書き両方が見出し語で、 <u>一語書き</u> が推奨 48	

図表1 見出し語の一語書き・分かち書きの内訳

一語書きするものは、248例中197例なので、79.4%である。

4.1. 現在分詞ごとの数

名詞－動詞結合と異なり、同じ現在分詞を持つ結合の数が多いのが、名詞－現在分詞の特徴である。同じ現在分詞で2個以上の見出し語があった場合を、現在分詞ごとに、一語書き推奨または一語書き

² 第26版を使用しているのは、筆者が購入した時点では、最新版の第27版のダウンロード版がまだ発売されていなかったからである。

のみ、分かち書き推奨に焦点を当てて分類すると、以下の表のようになる。

	一語書き	分かち書き	計
~erregend	16	0	16
~sparend	9	0	9
~schonend	6	0	6
~fressend	5	0	5
~raubend	4	0	4
~stillend	4	0	4
~begleitend	3	0	3
~brechend	3	0	3
~erhaltend	3	0	3
~senkend	3	0	3
~bedrohend	2	0	2
~bestimmend	2	0	2
~betonend	2	0	2
~bewegend	2	0	2
~entscheidend	2	0	2
~habend	2	0	2
~hemmend	2	0	2
~starrend	2	0	2
~zuckend	2	0	2
~liebend	8	1	9
~gebend	6	1	7
~tragend	4	1	5
~leidend	3	1	4
~bildend	11	2	13

~treibend	4	4	8
~suchend	5	6	11
~bringend	5	6	11
~verarbeitend	1	7	8
~gebietend	0	2	2
~exportierend	0	2	2

表1 現在分詞ごとの数

太線を引いたところには、一語書き・分かち書きの境目がある。~zuckendまでは、一語書きしかないものである。~liebend, ~gebend, ~tragend, ~leidend, ~bildendは、分かち書きより一語書きの方が多きもの、~treibendは、一語書き、分かち書きが同数であり、~suchend, ~bringend, ~verarbeitendは、一語書きより分かち書きの方が多く、~gebietend, ~exportierendは、分かち書きのみのものである³。

4.1.1. 一つの現在分詞に対して、複数の名詞の例

一語書きのみで、多くの例がある~sparend, ~schonendには、現代という時代を反映するような語が多い。以下に、一部の例を挙げる。

energiesparend, raumsparend, stromsparend, zeitsparend usw.
 faserschonend, hautschonend, umweltschonend usw.

一語書きと分かち書きのうち、一語書きの方が多き例として、

³ 分かち書きのみといっても、見出し語には、一語書き・分かち書きの両方があり、分かち書きが推奨されるものである。見出し語としてあらわれるということは、使われる頻度の高さ、慣用的な意味の一体性、そういうものをもっていると判断した。辞典の特性上、分かち書きのみの見出し語は出現しない。すなわち、即興的に作られる、分かち書きする、4格目的語+現在分詞句などは、ここでは扱わない。

～bildendの作るものを挙げる。分かち書きのものには下線を引いた。

berufsbildend, blutbildend, geistbildend, geschmacksbildend,
klassenbildend, meinungsbildend, schulbildend, stilbildend,
stimm bildend, Sporen bildend, Staaten bildend, vertrauenbildend,
volksbildend

さらに、一語書きと分かち書きのうち、分かち書きの方が多い例として、～bringendの作るもの（一語書き・分かち書きが同数に近い）と、～verarbeitendの作るもの（圧倒的に分かち書きが多い）を挙げる。分かち書きのものには下線を引いた。

gewinnbringend, gnadenbringend, Glück bringend, Heil bringend,
nutzbringend, Profit bringend, todbringend, Trost bringend,
Unheil bringend, Verderben bringend

Daten verarbeitend, Eisen verarbeitend, Fisch verarbeitend,
Holz verarbeitend, Leder verarbeitend, Metall verarbeitend,
Papier verarbeitend, rohstoffverarbeitend⁴

全体として、同じ現在分詞でも、こういうタイプの名詞と結合するので一語書きする、あるいは分かち書きするという、何らかの傾向は見いだせない。

⁴ ～verarbeitendの結合は、すべて、なんらかの素材を加工するという語である。rohstoffverarbeitendのみが一語書きであることに関しては、ドイツ語ネイティブから、Dudenに理由を問い合わせた方がよいのではないかと提案があった。なお、Dudenは、Sprachberatungという電話相談窓口を、ドイツ、オーストリア、スイスに設けている。

4.2. 名詞ごとの数

先ほどとは逆に、同じ名詞を持つ結合の数も多くあるのも、名詞 - 動詞結合には見られない特徴である。同じ名詞で見出し語が2個以上あった場合を名詞ごとに分類したのが、以下の表である。名詞が大文字書きのものは、分かち書きのみのものである。

	一語書き	分かち書き
herz-	7	0
leben-	5	2
blut-	5	0
nerv-	5	0
sinn-	4	0
dienst-	3	0
kosten-	3	0
kraft-	3	0
kräfte-	3	0
zeit-	3	0
hilfe-	2	1
atem-	2	0
beruf-	2	0
besitz-	2	0
frucht-	2	0
geist-	2	0
geruch-	2	0
laut-	2	0
raum-	2	0
richtung-	2	0
staat-	2	0

stelle-	2	0
vertrauen-	2	0
weg-	2	0
wohnung-	2	0
wut-	2	0
arbeit-	1	1
wache-	1	1
Eisen-	0	2
Öl-	0	2
Sporen-	0	2

表2 名詞ごとの数

名詞で分類した場合は、同じ名詞を持つ結合の中で、分かち書きのものは、ごく少数であると言える。名詞ごとの総数が少ないせいもあるが、現在分詞ごとに分類した表1でも一語書きが圧倒的多数とはいえ、一語書き・分かち書きが混在しているという印象は、表2よりは表1の方が強い。

4.2.1. 一つの名詞に対して、複数の現在分詞の例

一つの名詞に対して、もっとも多くの一語書きの結合のみを作る herz-の例を挙げる。

herzbeklammernd, herzbewegend, herzerfreuend, herzerfrischend,
herzergrifend, herzerquickend, herzerweichend

7例中分かち書きが2例の leben-の例と、2例中一語書き・分かち書きが1例ずつある wache-の例を挙げる。分かち書きには下線を引いた。

lebenbejahend, lebensbedrohend, lebensbejahend, lebenserhaltend,
lebensrettend, Leben spendend, Leben zerstörend

wachhabend, Wache stehend

また、一つの名詞に対して、分かち書きの結合のみを作る、Eisen-,
Öl-, Sporen-の例を挙げる。

Eisen schaffend, Eisen verarbeitend

Öl produzierend, Öl exportierend

Sporen bildend, Sporen tragend

この場合も、名詞に対しての現在分詞に、一語書きまたは分かち書きを決定するような、何らかの傾向は見られない。

4.3. パラディグマ形成度の高さ

ここまでで分かるのは、名詞－現在分詞結合においては、パラディグマ形成度が非常に高いということである。

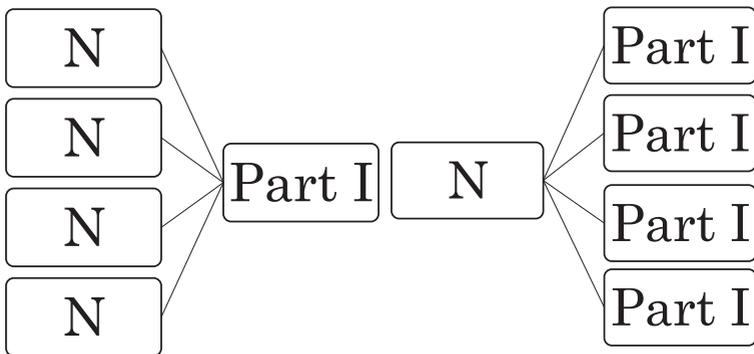


図1 パラディグマ形成の模式図

これまで述べてきたように、一つの現在分詞に対して複数の名詞が結合し、一つの名詞に対して複数の現在分詞が結合する。この、名詞－現在分詞結合に特有なパラディグマ形成度の高さは、パラディグマを形成する名詞－現在分詞に相当するような名詞－動詞結合が、見出し語に見当たらないことが証するともいえる。この点は、名詞－現在分詞結合が、名詞－動詞結合とは、明らかに異なっているところである。

4.4. 分かち書きの許容度

図表1に戻って、分かち書き中心に考えると、全体の248例中51例、20.6%に分かち書きが推奨されている。また、図表1では表せていないが、一語書き・分かち書きの両方が見出し語にあるものは99例である。このうちで、分かち書きが推奨されるものが51例ということは、51.5%であり、わずかだが半数を超えている。また、一語書き・分かち書きの両方が見出し語にある99例は、どちらか一方が推奨されるとはいえ、裏返せば、一語書き・分かち書きの両方が許容されている。となると、全体の248例中99例、39.9%が分かち書きを許容されているとも言える。この数字は、多いか少ないかは即断できないが、比較的分かち書きは許容されているのではないかと考えられる。

5. 形態から分かること

名詞－現在分詞結合には、他にも、名詞－動詞結合にない特徴がある。それを以下で述べる。

5.1. 造語論的特徴

今まで挙げた名詞－現在分詞結合の例にも見受けられたが、名詞と現在分詞の間に、-s-や-(e)n-という接合要素 (Fugenelement) が入る場合がある。

-s-が入る例

berufsbildend, geschmacksbildend, lebenssbedrohend

-(e)n-が入る例

klassenubildend, gnadenubringend, insektenufressen

また、名詞末のSchwaが欠如する場合もある。

schulbildend (Schuleu), wachhabend (Wacheu), erdumspannend
(Erdeu), friedliebend (Friedeu)

この、接合要素が入るという点、名詞末のSchwaが欠如するという点は、共に、複合語の特徴とされている。(vgl. Fleischer/Barz S. 185ff.; ナウマン S.36ff. u.a.) これら、複合語の特徴を持つ例は、248例中52例、21.0%である。名詞－動詞結合には、これらの特徴を持つ語は見られない。これもまた、名詞－現在分詞結合にしかない特徴である。

二つの要素からなる語結合が、複合語の特徴を持つということは、その語結合は、二つの要素からなる一つの語へと移行しようとする傾向を持つように思われる。

5.2. 例外：Rückbildungによると思われるもの

今回、1例のみ見つけた特殊な例である。stabreimendという語であるが、これは、Stabreimという複合名詞からのRückbildungではないかと思われる。*stabreimenという動詞は、辞書の見出し語としては存在しない。名詞Stabと動詞reimenの結合と考察してみた場合、4格目的語+動詞の組み合わせとしても、それぞれの意味の組み合わせとしても、無理がある。少なくとも、辞書記述からは、説得力ある説明を引き出せない。

なお、Stabreimの反対語に当たるEndreimに由来するような、*endreimend, *endreimenという形は、辞書の見出し語には存在しなかった。

6. 正書法規則の記述について

正書法規則の記述において、名詞－現在分詞結合の一語書き・分かち書きに関する箇所は、amtliche Regelungの記述が常にそうであるように、その理由や判別の仕方が判然としない。

6.1. 一語書きか分かち書きか？

6.1.1. amtliche Regelung

以下の部分が、amtliche Regelungにおける、名詞－現在分詞結合に相当する記述である。

§ 36

Substantive, Adjektive, Verben, Adverbien oder Wörter anderer Kategorien können als erster Bestandteil zusammen mit einem adjektivischen oder adjektivisch gebrauchten zweiten Bestandteil Zusammensetzungen bilden. (S.39)

第一構成要素が、形容詞あるいは形容詞的に用いられる第二構成要素とZusammensetzungを作るというのだが、それが次の項の記述を見ると、ややこしくなってくる。ちなみに、Zusammensetzungは、基本的に一語書きされ、Wortgruppeは分かち書きされる⁵。

(1) Es wird zusammengeschrieben, wenn

(1.1) der erste Bestandteil mit einer Wortgruppe paraphrasierbar ist, zum Beispiel:

angsterfüllt, bahnbrechend, butterweich, fingerbreit, freudestrahlend, herzerquickend (...)

E1: Im Unterschied zur Zusammensetzung weist die entsprechende

⁵ amtliche Regelung S.33

syntaktische Fügung Artikel, Präpositionen u. Ä. auf, zum
 Beispiel: *von Angst erfüllt* (= *angsterfüllt*), *das Herz erquickend*
 (= *herzerquickend*) (...) (a.a.O.)

冠詞や前置詞を第一構成要素と用いて, syntaktische Fügungとして書き換えられるものが一語書きされるということであろうが, amtliche Regelungの記述が常にそうであるように, その理由や判断基準ははっきりしない。

6.1.2. Duden Rechtschreibung

Duden Rechtschreibungでは, もっと明確な文章で書かれている。

D59

Zusammensetzung mit einem Substantiv als erstem Bestandteil sind oft Verkürzung von Wortgruppen. Es wird dabei ein Artikel oder eine Präposition (ein Verhältniswort) eingespart < § 36 (1) >.

mondbeschienen (vom Mond beschienen)

(...)

herzerquickend (das Herz erquickend)

(...) (S.55 Duden 27.Aufl.)

しかし, amtliche Regelungにおける記述を, 判じやすい文章にしたという以上の意味は無い。

実際, Duden Rechtschreibungにおいても, amtliche Regelungで, 明確に一語書きと分かち書きの違いを定められていないことは言及されている。

Allerdings ist die Unterscheidung von Wortgruppen und Zusammensetzungen nicht immer eindeutig möglich. Wo die

nachstehenden Hinweise und das amtliche Regelwerk keine Klarheit schaffen, sollte sowohl Getrennschreibung als auch Zusammensetzung toleriert werden. (S.48)

よって、正書法規則自体に、これ以上の、一語書きか分かち書きかの判断を求めるのは、無駄であろう。

6.2. 現在分詞の用法

名詞－現在分詞結合に限らず、現在分詞の用法は、以下の2通りである。

- 付加語的用法：eine appetitanregende Vorspeise
- 副詞的用法：es roch appetitanregend

つまり、用法が限定されているため、文の述部となる名詞－動詞結合に比べると、ふるまいはずいぶんパターン化されている。

正書法規則に戻ると、明確に一語書き・分かち書きが決定される場合がひとつある。それは、名詞－現在分詞結合が表す事柄の度を強調する場合である。

E3: Bei erweiterten bzw. gesteigerten Formen richtet sich die Schreibung danach, ob nur der erste Bestandteil oder die gesamte Verbindung betroffen ist, vgl. *ein schwerwiegenderer Vorfall – ein schwerer wiegender Vorfall; eine äußerst notleidende Bevölkerung – eine große Not leidende Bevölkerung* (Amtliche Regelung S.41)

強調する方法は3通りあり、名詞－現在分詞結合をひとつとらえて、比較級の語尾を付ける方法と、強調の副詞を付加する方法、つまり、形容詞的に扱う方法である。もう一つは、名詞部分に付加語を付

ける方法、つまり、第一構成要素の名詞を独立した名詞として扱う方法である。3つめの場合は、名詞－現在分詞結合は、付加語＋名詞と現在分詞に分ち書きされる。

7. 名詞－動詞結合と名詞－現在分詞結合との違い

7.1. 名詞－現在分詞結合の特徴

名詞－現在分詞結合は、名詞－動詞結合にはない特徴を持っている。それを、以下のようにまとめてみた。

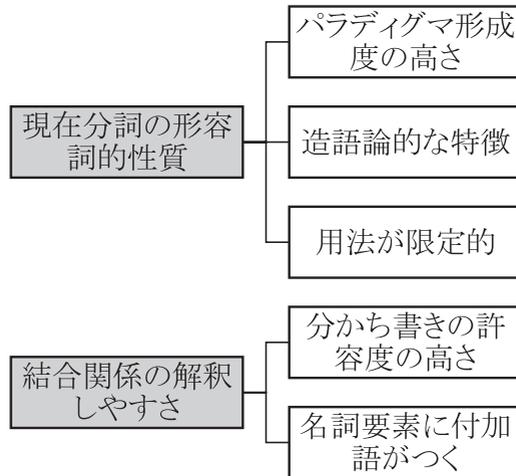


図2 名詞－現在分詞結合の特徴

今までに挙げてきた、名詞－現在分詞結合が持つ、名詞－動詞結合と大きく異なる特徴である、「パラディグマ形成度の高さ」「造語論的な特徴（接合要素を持つことや名詞末のSchwaの欠如）」「用法が限定的（付加語的用法と副詞的用法）」は、現在分詞が元々持っている形容詞的な性質に通じるものと考えられる。すなわち、一語としてとらえやすいのである。文の述部として機能し、文の枠構造を作る名詞－動詞結合の場合は、その結合を一語としてとらえてよいかどうかは、この

ようにたやすく判断できない。

また、ここでは、結合関係の解釈しやすさと表現したが、これは、名詞と現在分詞の結びつきに関するものである。ここに挙げた、「分かち書きの許容度の高さ」「名詞要素に付加語がつく（程度の強調の場合）」は、どちらも分かち書きと関連するので、結合の弱さを示しているように思われる。しかし、逆に結合関係が分かりやすいからこそ、分かち書きされても結びつきを保っているとも考えられる。特に、現在分詞の形容詞的性質と併せて考えると、この結合関係に、ゆるいが確たる結びつきがあることは、理解しやすい。用法が限定的であることは、名詞－現在分詞結合がひとまとまりのものとして使用されることを前提としている。

7.2. 名詞－現在分詞結合の扱い

以上のことから、名詞－動詞結合と比べると、名詞－現在分詞結合は、かなり異なった特徴を持っていることが分かる。一方で、名詞－動詞結合における、明確に分類しがたいふるまいは、文の述部を担い、枠構造を作るということが、ひとつの要因ではないかと推測される。名詞－現在分詞の場合は、使用する場面が、付加語的用法と副詞的用法に限定されるということが、ふるまいをパターン化し、複雑でなくしている要因のひとつだと考えられる。少なくとも、名詞－現在分詞結合は、ひとつの語、ひとまとまりと認識されるような特徴を、名詞－動詞結合に比べると多分に持っている。

結論としては、名詞－現在分詞結合は、名詞－動詞結合とは、まったくの別物であると解釈できる。これは、名詞－動詞結合の動詞部分が、現在分詞の形態をとっているものとは考えにくい。つまり、名詞－動詞結合を分析するにあたっては、名詞－現在分詞結合は、その範疇に入れなくてもよいということである。

注

本論文は、京都ドイツ語学研究会第93回例会（2017年9月16日 於：キャンパスプラザ京都）での口頭発表「名詞を第一構成要素としてもつ現在分詞 一語書きされる名詞－動詞結合のひとつのバリエーションとして」の内容を、加筆、修正したものである。

参考文献

- Duden Bd.1 (2013) *Die deutsche Rechtschreibung*. 26.,völlig neu bearbeitete und erweiterte Auflage, Dudenverlag
- Duden Bd.1 (2017) *Die deutsche Rechtschreibung*. 27.,völlig neu bearbeitete und erweiterte Auflage, Dudenverlag
- Eichinger, Ludwig M. (2000) : *Deutsche Wortbildung. Eine Einführung*. Gunter Narr Verlag
- Eisenberg, Peter (2013) : *Grundriss der deutschen Grammatik Band 1: Das Wort*. 4.Auflage. Verlag J.B.Metzler
- Fleischer, Wolfgang/Barz, Irmhild (2012) : *Wortbildung der deutschen Gegenwartssprache*. 4., völlig neu bearbeitete Auflage, Walter de Gruyter
- Fuhrhop, Nanna (2000) : „Zeigen Fugenelemente die Morphologisierung von Komposita an?“ In: Thieroff, Rolf (Ed.) et al. *Deutsche Grammatik in Theorie und Praxis*. Niemeyer, S.201-213
- Fuhrhop, Nanna (2007) : *Zwischen Wort und Syntagma. Zur grammatische Fundierung der Getrennt- Zusammenschreibung*. Max Niemeyer Verlag (reprint 2012 de Gruyter)
- Fuhrhop, Nanna (2015) : *Orthografie*. 4.Auflage, Universitätsverlag Winter
- Rat für deutsche Rechtschreibung (Hrsg.) (2006) : *Deutsche Rechtschreibung Regeln und Wörterverzeichnis*. Gunter Narr Verlag
- ベルント・ナウマン (2008) : 『ドイツ語造語論入門』 三修社 (石井賢治訳)

Duden Shop⁶ <https://www.duden.de/Shop/Die-Rechtschreibung>
(2017/12/27 閲覧)

(大阪府立大学准教授)

⁶ 筆者が購入したすぐ後に、最新の第27版のダウンロード版が発売されたので、現在は第27版のみが購入可能である。